平成26年度 茨城大学人文学部PBL授業
プロジェクト実習

活動報告会

PBLとは

PBL（Project Based Learning）技法は、昨今その教育効果の高さが注目されているアクティブラーニングの一種であり、「課題解決型学習」と訳されます。茨城大学では、2010年度以来、学生の就業力育成支援を目指す教育プログラム「根力（ねぢから）育成プログラム」の構築を進めており、その中核としてPBL技法に基づく授業を位置づけています。

- イズミイル ― 泉町二丁目商店街振興組合と連携して、中心市街地活性化
- さとみ・あい ― 常陸太田市と連携して、同市里美地区の魅力を発信
- ICE ― 茨城キリスト教大学と連携して、留学生・日本人学生・高校生の異文化交流・理解の促進
- 公共交通 ― 水戸市役所ならびに茨城交通株式会社と連携して、市内バスの利用促進
- こみフェス ― 水戸市役所と連携して、こみっとフェスティバルの企画・運営に参画
- 先進地実地研修報告 ― PBLの先進地・山形県最上郡金山町での学び
- トークセッション ― プロジェクト実習の今後と連携の広がり

日時 平成27年
1月31日（土）
13:00~16:10（12:20受付開始）

※12:20~12:50に、プロジェクト実習受講全5チームによる活動報告、ならびに先進地実地研修の報告をポスターセッション形式で実施します。

会場 茨城大学 人文学部10番教室

主催　茨城大学人文学部（市民共創教育研究センター）
共催　茨城キリスト教大学／常磐大学／常陸太田市／茨城大学大学教育センター
後援　泉町二丁目商店街振興組合（水戸市）

活動報告会に関するお問い合わせは
☎029-228-8139 または
Eメール dkanda@mx.ibaraki.ac.jp 神田大吾まで

担当教員より

学生が社会人としての基礎力を身に付ける専門科目「プロジェクト実習」は、今年度、人文学部学生を中心に、教育学部、また単位互換協定を結んでいる常磐大学、茨城キリスト教大学の学生が参加し、五つのチームに分かれて活発に活動を続けて参りました。

いずれの活動においても地域の皆様と密接に連携させていただき、種々のご支援を賜りました。活動報告会では各チームから活動の成果をご報告させていただくとともに、皆様からの率直なご意見をいただければ幸いに存じます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

茨城大学 人文学部准教授 神田 大吾

平成26年度 茨城大学人文学部ＰＢＬ授業 プロジェクト実習

活動報告会

0 ポスターセッション 12:20ー12:50

プロジェクト実習受講全5チームの活動報告ならびに先進地実地研修の報告

1 開会挨拶 13:00ー13:10

佐藤和夫（大学教育センター長・学長特別補佐）

2 茨城大学就業力育成支援事業と人文学部開講科目「プロジェクト実習」 13:10ー13:20

井澤耕一（就業力育成支援実施専門委員会副委員長・根力育成プログラム小委員会委員長）

3 活動報告 13:20ー14:35

(1) イズミイルチーム
(2) さとみ・あいチーム
(3) ICE チーム
(4) 公共交通チーム
(5) こみフェスチーム

4 休憩 14:35ー14:45

5 先進地域実地研修報告 14:45ー15:15

(1) 先進地実地研修の趣旨と実績　鈴木敦（キャリア教育部長・就業力育成支援実施専門委員会委員長）
(2) 茨城大学「プロジェクト実習·先進地実地研修」参加報告　井上紗希·星野由季菜（参加学生代表）

6 地域に学び地域を支える人材教育 15:15ー15:25

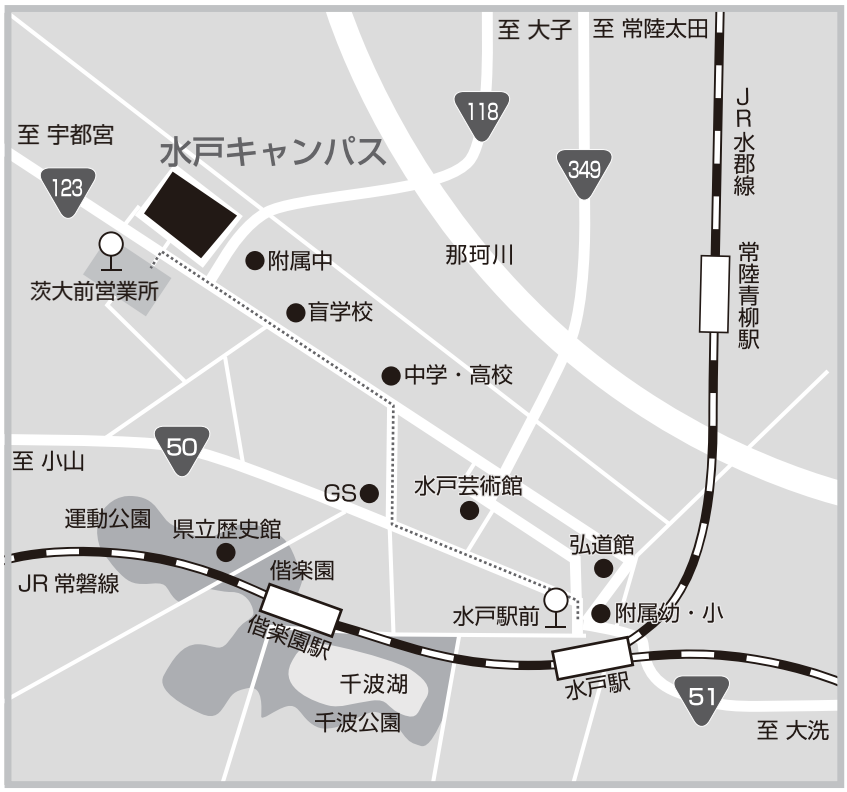
内田　聡（茨城大学COC統括機構副機構長・学長特別補佐）

7 トークセッション「プロジェクト実習の今後と連携の広がり」 15:25ー16:00

澁谷浩一（教育改革推進委員会委員長・学部共通プログラム運営委員会委員長・評議員）
高野健治（泉町二丁目商店街振興組合理事長）
鬼沢隆文（水戸市役所地域振興課協働係長）
内田　聡（茨城大学COC統括機構副機構長・学長特別補佐）
村山元理（常磐大学国際学部経営学科長 ）
上野尚美（茨城キリスト教大学文学部長）
◎ファシリテーター　鈴木敦

8 総括と閉会挨拶 16:00ー16:10

佐川泰弘（茨城大学人文学部長）



日時 平成27年 1月31日(土) 13:00-16:10
12:20 受付開始

会場 茨城大学 人文学部10番教室

水戸キャンパス
ＪＲ水戸駅（北口）バスターミナル７番乗り場から茨城交通バス「茨大行（栄町経由）」に乗車、「茨大前営業所」で下車。バス乗車時間は約30分。
茨城交通ＨＰ▶ www.ibako.co.jp

お問い合わせは

☎029-228-8139 または
Eメール dkanda@mx.ibaraki.ac.jp
茨城大学 神田大吾まで

茨城大学就業力育成支援事業と人文学部開講科目「プロジェクト実習」

「根力育成プログラムの構築状況と成果」

茨城大学・人文学部

井澤耕一

1

1 人文学部における根力育成プログラム

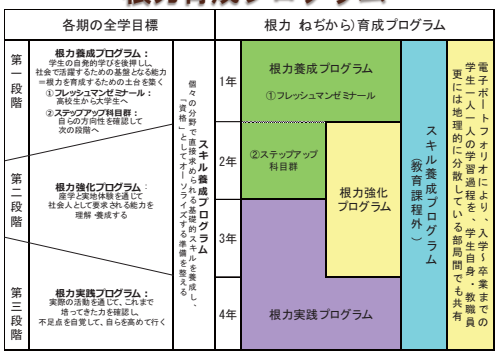
2

茨城大学根力育成支援事業

1．４年一貫の「根力育成プログラム」
2．アクティブラーニング(能動的学習)
　特にＰＢＬ（課題対応型学習）技法の重視
3．学生同士の相互教育体制
4．学生の学びを学生自身と教職員が共有するための
　電子ポートフォリオシステムの構築
5．所定単位の修得者に「根力修了証」発行

3

根力育成プログラム



4

人文学部の開講状況

1：根力養成プログラム（教養・必修・6単位）
①フレッシュマンゼミナール（必修・4単位）
「主題別ゼミナール」＋「情報処理概論」
②ステップアップ系科目（選択必修・２単位）
「調べること・考えること」「人間科学と対話の知」
「キャリア教育と大学教育・研究」「社会人入門」
「働くということを知る」　など

2：根力強化プログラム（専門・選択必修・4単位）
「プロジェクト実習A」「同B」「同C」「同D」　（スタッフ編）
「インターンシップA」「同B」
「地域連携論Ⅰ」「同Ⅱ」

3：根力実践プログラム（専門・選択必修・2単位）
「プロジェクト実習A」「同B」「同C」「同D」
（スタッフ編・メンター編）
「実践連携科目A」「同B」

5

2．ＰＢＬ授業

人文学部「プロジェクト実習」について

6

プロジェクト実習の構造(1)

1．根力育成プログラムの中核授業
→「根力修了証」発行の必須条件に（予定）

2．通年60時間・２単位

3．一斉授業とチーム別活動の組み合わせ

4．プロジェクト＋追加アイテム

5．学年＆経験の違うメンバーでチーム活動
→１チームは９名以下
→連合しての「大チーム」結成や
チーム相互の協力関係構築を推奨

7

(1)プロジェクト実習へのご支援
①課題を提供して下さった
・水戸市役所・泉町二丁目商店街振興組合・
茨城交通
・JTB関東・ひたちなか海浜鉄道・大丸屋　他
②多方面にわたるご支援
常陸太田市役所・里美地区住民の皆様・
里美地区地域おこし協力隊　他
③連携協力
茨城キリスト教大学・常磐大学・水戸農業高等
学校・県内の各高校・里美中学校　他
④講座（90×２）をご提供　　朝日新聞社

(2)実践連携科目へのご支援
NTTコミュニケーションズ　　（敬称略）

8

プロジェクト実習の構造(2)

6．他学部・他大学からの受講も歓迎
→多様なメンバーによる「化学反応」を期待

7．外部の支援者を積極的に獲得

8．活動予算は一律支給＋自己調達

9．自己評価＋相互評価＋教員評価

10．授業担当教員＋チーム顧問教員で
指導

9

プロジェクト実習 シラバス

2014年度
プロジェクト実習D
スタッフ編

10

プロジェクト実習 大まかな流れ

4月～5月：
ガイダンス→前年度優勝チームによる活動紹介→
プロジェクト提案→チーム結成→受講カテゴリ決定→履修登録
→チーム別活動→構想発表会

6月～前期末：
チーム別活動→中間報告会

夏期休暇～後期初頭：
チーム別活動→中間報告会

11月ごろ（チームにより変動あり。概して学園祭時期）
チーム別活動→ピークとなる活動・催事

12月後半～１月前半：
チーム別活動→活動報告会（プレゼン・バトル形式）

1月後半～年度末：
振り返り→相互評価→報告書作成

適宜、追加アイテムを挿入

11

2012～13年度 プロジェクト実習の構成

授業科目名		プロジェクト実習A	プロジェクト実習Ｂ
テーマ		水戸市及び近郊を主たるフィールドとする	遠郊を主たるフィールドとする
段階	対象学年	担当教員　鈴木敦	担当教員 ～2013前期　蜂屋大八 2013後期～　鈴木　敦
根力強化プログラム	2-4年	プロジェクト実習A スタッフ編	プロジェクト実習Ｂ スタッフ編
根力実践プログラム	3-4年	プロジェクト実習A リーダー編	プロジェクト実習Ｂ リーダー編

プロジェクト実習は、2012年度の試験開講を経て2013年度より正式開講

12

2014年度～ プロジェクト実習の構成

授業科目名		プロジェクト実習 A	プロジェクト実習 B	プロジェクト実習 C	プロジェクト実習 D
テーマ		未分化	地域連携 地域貢献	国際交流 異文化理解	PBL型 インターンシップ
段階	対象学年	主担当 :神田大吾 副担当 :井澤耕一	主担当 :鈴木　敦 副担当 :杉本　妙子 笹川貴史子	主担当 :杉本妙子 副担当 :神田大吾	主担当 :井澤耕一 副担当 :鈴木　敦
根力強化プログラム	2- 4年	プロジェクト実習A スタッフ編	プロジェクト実習B スタッフ編	プロジェクト実習C スタッフ編	プロジェクト実習D スタッフ編
根力実践プログラム	3- 4年	プロジェクト実習A リーダー編	プロジェクト実習B リーダー編	プロジェクト実習C リーダー編	プロジェクト実習D リーダー編
	4年	プロジェクト実習A メンター編	プロジェクト実習B メンター編	プロジェクト実習C メンター編	プロジェクト実習D メンター編

13

プロジェクトの提案・選択は自由

1．前年度からの継続プロジェクトに参加する

2．教員や学外から提案されたプロジェクトに参加する

3．自分でやりたいプロジェクトを新たに提案しメンバー（自分を含めて最低５人）を集める

どれでも可

14

2013年度のプロジェクト

チーム名（略称） チーム名	大チーム名	プロジェクト概要	～2013 分類	2014～ 分類
地域連携ポータル		本学学生が個別に行っている各種地域連携活動の横の繋がりを強化	A	A
ミトランティア		水戸市の学生目線のタウン誌発行	A	A
めだかの学校復活		水戸市逆川緑地の外来魚駆除と環境保全	A	A
水戸の魅力発掘隊		水戸市の魅力を再発見し、外部に発信	A	A
ネバーランド		水戸名産 納豆の普及促進	A	A
ホーリーホック応援支隊		本学学生へのFC水戸ホーリーホックの認知度上昇促進	A	A
ビブリオバトル		常陸太田市旧市街を中心に、知的書評合戦ビブリオバトルの普及促進	A	A
CCP		留学生 -日本人学生 -高校生 -地域の方々との交流促進事業展開	A	C
SODC		途上国支援活動並びに地域の方々への途上国に関する知識普及	A	C
ホーリーホックバス		茨城交通様と共に、ホームゲーム時のシャトルバス利用促進策策定	A	D
アドバイザ		受講経験者の 4年生による、各チームへのアドバイス	A	メンター編
里川カボチャ	さとみ -あい	常陸太田市里美地区の在来種里川カボチャの商品開発と知名度向上	B	B
里美Cafe		常陸太田市里美地区の魅力を発見 -発信	B	B
里美トラベル		常陸太田市里美地区の魅力を知るツアーの企画 -実施	B	B

15

2013年度追加アイテム

1．朝日新聞講座(90分×２コマ)

(1)無料支給の朝日新聞を使って
(2)現役新聞記者が水戸キャンパスで
(3)「新聞の読み方」「情報の使い方」「文章作法」を講義⇐今年度もすでに実施

2．PROGテスト(テスト90分＋講座90分)

http://www.kawai-juku.ac.jp/prog/

(1)「正解」の無いテストで
(2)「リテラシー」と「コンピテンシー」を計測
(3)「結果の見方」と「今後の取り組み方」講座
(4)受験料3,000円は、大学負担

16

「スタッフ編」等の意味(1)

初めての受講＝スタッフ編
２年目の受講＝リーダー編
３年目の受講＝メンター編

要は：**練　度**

リーダー編受講の３年生と
スタッフ編受講の４年生という
組み合わせもアリ！

17

「スタッフ編」等の意味(2)

スタッフ編受講のチームリーダー
リーダー編受講のチームスタッフ
という役割分担もアリ！

要は：**スタンス**

引っ張るリーダーシップもあれば
支えるリーダーシップもある！

18

Ａ～Ｄ　カテゴリの考え方

1．「どの角度から見るか」
　→厳密な分類学の話ではない

2．独自性と親和性
　→プロジェクトの性格やフィールド、
　　連携組織等

＊要は、**学びやすさの担保**

19

活動予算について

1．１チーム当たりMAX４万円を配分
　→「使い切る」必要なし。節約に努めて下さい

2．里美地区での活動には常陸太田市から補助

3．チームごとに自前で調達
　→「学内・学外の、この種の活動に対する補助金に応募する」
　「連携相手と交渉する」「学園祭出店等で稼ぐ」等々

↑

「計画遂行の為の予算調達」自体が
根力育成のトレーニング

20

チーム内相互評価表

1．成績の最終評価は担当教員が行う
2．その際「顧問教員の評価」「学生の相互評価」も参考にする
3．教員にとっては多面的な見方の担保
4．学生にとっては将来の管理者・評価者としてのトレーニング

＊ルーブリックの導入は
尚、今後の課題

21

20～11年度の活動

2010年度
- 茨城大学「就業力ＧＰ」補助金獲得

2011年度
- 常陸太田市里美地区に、総務省事業で
  地域おこし協力隊三名着任（任期3年）
- 茨城大学にＧＰ予算で蜂屋准教授着任
  （任期2年）
- 蜂屋准教授、里美地区をフィールドとした
  ＰＢＬ授業開設に向けた模索を開始
- 常磐大学・常磐短期大学・茨城大学の三者間で
  連携協定締結
- 常陸太田市、総務省「域学連携補助金」獲得

22

2012年度の活動

- 事業仕分けにより「就業力ＧＰ」打切
- 蜂屋准教授による
  「地域づくりプロジェクト実習」開講
  ＊里美地区をフィールドとする、常陸太田市・常磐大学・
  常磐短期大学・茨城キリスト教大学・茨城大学の連携授業
  →「里美地区の皆さん＋地域おこし協力隊」が連携のカギ
  ＊現「プロジェクト実習Ｂ」
- 教養科目でのＰＢＬ授業開講は果たせず
- 常陽ビジネスアワード受賞
- 常陸太田市、総務省「過疎集落等自立再生緊急対策
  事業補助金」獲得
- 茨城キリスト教大学と茨城大学の間で連携協定締結

23

2013年度の活動

- 茨城大学「産業界のニーズに対応した
  教育改善・充実体制整備事業」補助金獲得
- 茨城大学の要請を受け、常陸太田市が
  地域おこし協力隊に「大学院生枠」を新設
- 蜂屋准教授、前期末を以て任期満了・退任
  →鈴木がプロジェクト実習Ａに加えＢの担当教員も兼任
- 里美での活動が学外・学内で注目を集め
  当初予定に無かった活動が次々追加
  →知名度・貢献度向上で大車輪
- 2014年度に繋がる「水戸市域との連携」が誕生・拡大
- 里美支所内に「茨城大学里美地区FWC」設置内定
- 里美地区地域おこし協力隊三名、任期満了・退任
  →立ち上げ時の担当教員に続き、現地のキーマンも退任

24

「里美Café」＋「里川カボチャ」＋「里美トラベル」
＝大チーム「さとみ・あい」の奮闘

里美Caféチーム
単独での活動記録
（表題のみ）

4月17日	構想発表会
5月15日	茨城県事業説明会
5月21日	里美Café話し合い
5月22日	学生地域事業プロジェクトプレゼンテーション
5月25日	里美地区説明
5月26日	里美Café話し合い（茨城大学図書館）
5月29日	里美Café話し合い（五町会館）
6月 3日	茨城県第1回各地区代表会議
6月22日	高橋会長とCafé話し合い
6月25日	商店街でPRのビラ配布作成
6月26日	里美Café話し合い（五町会館）
6月29日	里美地区説明
7月 2日	修繕見積の話し合い
7月 5日	パンフレット会議
7月 9日	修繕見積の話し合い
7月10日	茨城県第2回各地区代表会議
	いばらき中央線とのパンフレット会議
7月14日	パンフレットの表紙を里の花里地区に決定
7月16日	かわら版話し合い
7月24日	里美Café話し合い（五町会館）
	里美日記かわら版vol.1発行
7月22日	里美会議２回目
7月26日	里美会議２回目
8月 6日	修繕見積の話し合い
8月 7日	里美Café話し合い
8月11日	パンフレット会議
8月12日	パンフレット会議（里美荒町）
8月17日	里美Café話し合い（アカトーラとC）
8月28日	里美日記かわら版vol.2発行
8月30日	CRE/SPC/Café顔合わせ（五町会館）
9月30日	かわら版配布
9月 2日	パンフレット会議（里美荒町）
9月 3日	CRE/SPC/Café五町会館運営委
9月 4日	CRE/SPC/Café五町会館
9月16日	茨城県第3回各地区代表会議
9月25日	里美日記かわら版vol.3発行
10月 2日	茨城県第1回公募説明会会
10月 4日	常陸新聞社取材会議
10月 7日	常陸新聞社取材会議
10月 9日	茨城県第4回各地区代表会議
10月10日	茨城県村ちゃかい
10月11日	茨城県村ちゃかい
	常陸新聞社取材会議
10月14日	常陸新聞社取材会議
10月16日	常陸新聞社取材会議
10月20日	東京ガスチャレンジ通信会
10月21日	常陸新聞社取材会議
10月23日	茨城県第5回各地区代表会議
	茨城県村ちゃかい
10月26日	里美会議２回目
	里美中学校講演会
10月27日	里美会議２回目
10月28日	茨城県村ちゃかい
	常陸新聞社取材会議
10月30日	茨城県第２回公募説明会会
11月 1日	パンフレット「里美ものがたり」完成
	常陸新聞記事
11月 3日	常陸祭
11月 4日	茨城県村ちゃかい
11月 7日	茨城県村ちゃかい・新聞記事
11月 9日	茨城県２回目
11月10日	茨城県２回目
11月17日	里美地区説明
11月21日	看護もやってリ！フォーラム結果報告会
12月 4日	茨城県第５回各地区代表会議
	ファーマーズマーケット村ちゃかい
12月14日	ファーマーズマーケット告知
1月13日	里美Café話し合い
1月16日	里美地区総会出席
1月23日	パネル作成
1月26日	里美地区報告会準備
1月25日	プロジェクト実習Ｄ 里美報告会
1月31日	プロジェクト実習Ｄ報告会準備
2月 1日	プロジェクト実習Ｄ報告会
2月12日	アクティブラーニングフォーラム準備
2月13日	アクティブラーニングフォーラム

＊この他に会議議事録
計27回分
＊里美Caféチーム単独で
これだけ活動した上に、
大チーム「さとみ・あい」
としての合同活動や、
他２チームの支援、
さらに大学内外からの
協力要請への対応

2014年度の活動

- **実施体制の強化**
  A～Dに分化・メンター編追加・担当教員１名→４名に増員
  ・元地域おこし協力隊員（1名）を非常勤講師任用・・・
- **外部提案募集→予想外の活況**
  水戸市役所様・JTB関東様・泉町二丁目商店街振興組合様・
  ひたちなか海浜鉄道様・マルダイフレッシュフーズ様ほか
- **履修者が約1/4に激減**
  全カテゴリ合計90名14チーム　→　同25名4チーム
  里美での活動希望者20名3チーム → 同 7名 1チーム
  （チーム自ら少子高齢化）

- **原因の分析**
  (1)書類上の位置づけ変更（通常→集中）による
  シラバス冊子上での「見えにくさ」
  (2)他大学でも同種の授業が開講され、単位互換
  受講生（昨年度実績13名）がゼロに
  (3)過重な負担感とそれによる敬遠
- **当面の課題**
  (1)受講生の育成⇐やってよかったという噂
  (2)「外部提案者」との連携維持
  (3)「バランス重視・持続可能な負荷」での存続

茨城大学におけるインターンシップの取組

●授業科目名：プロジェクト実習Ｄ（２単位）
●実習先企業等：水戸市役所
●実 習 場 所：茨城県水戸市
●参加対象者：全学部　２～４年生
●実 習 期 間：４月～２月　　●実 習 日 数：1～5日程度

＜取組の概要＞
官公庁・企業等から戴いた課題に、１年間を通じて取り組み、年度末に報告会を開催する。その間、主として夏期休業中に１日～５日程度を目安に、フルタイム勤務を行うPBL型インターンシップである

中間報告会
水戸市役所職員からの質問に答える

フルタイム勤務
取組中の催事プランを検討する

ご清聴
ありがとうございました

プロジェクト実習A
イズミイル

リーダー　小林夏海
副リーダー・渉外　西江隆博
渉外　征矢朋子
会計　久保絢美
書記　伊能由華
星野由季菜

目次

- イズミイルとは？
- Farmer's Market @MITOとは？
- 今までの活動
- 目的・目標
- 水戸まちなかフェスティバル
- 茨苑祭
- 食と農の交流ツアー in 行方
- 商店街おもしろMAP
（水戸まちなか女子会マップ、おひとりさまっぷ）
- 年間を通して
- 決算
- お世話になった方々

イズミイルとは？

- 「泉町会館を交流と食育の場にする」という目的のもと、Farmer's Market @MITOを対象に活動。

「泉町会館」の「泉」
「魅入る」
「食事（meal）」

Farmer's Market @ MITOとは？

- 泉町二丁目商店街にある「泉町会館」で週に6回、さまざまな団体によって行われている野菜市。
- 泉町二丁目商店街振興組合さまが農家と水戸市民の交流拠点、まちの賑わい創出の場として開催。

〈開催日・時間〉
月～土　9時～17時
月・水・金　15時～17時30分
木曜日　10時～17時
第2・4金曜日　9時～14時

今までの活動

- （5月）水戸市農業技術センター訪問
- （6月）ぶどう農園見学
- 明後日朝顔プロジェクト参加
- 泉町二丁目商店街振興組合理事長、副理事長訪問
- 水戸まちなか見学
- 稲敷市のかくま牧場訪問
- 稲敷市の「稲四季弁当」ワークショップ見学

今までの活動

- （7月）Farmer's Market @ MITO 訪問（現状調査）
- Farmer's Market @ UNU 訪問
- ヒルズマルシェ訪問
- さとみ・あい、ICEのみなさんと里美訪問、農業体験
- アグリビジネス推進課半田さまと宮本さまの打ち合わせに同席
- Farmer's Market @MITOで販売体験
- （8月）食と農のテーマパーク「ふきのとう」さま訪問
- ブルーベリー農園そらさま訪問

今までの活動

- （9月）茨城放送にてラジオ出演
  「ふるさと絆インフォメーション」
- 水戸まちなかフェスティバル
- （11月）茨苑祭
- Twitterアカウント作成、運営
- （12月）商店街おもしろMAP掲載店取材
- （1月）食と農の交流ツアー in 行方　開催
- 商店街おもしろMAP完成

目的・目標

水戸のまちなかの流動人口の減少

＋

人々の交流の減少

＋

Farmer's Market @MITOの存在

→

＜目的＞
泉町会館を交流と食育の場にする

〈目的〉
泉町会館を交流と食育の場にする

↓

広報の強化　魅力づくり　雰囲気づくり

↓

水戸まちなかフェスティバル
茨苑祭
食と農の交流ツアー in 行方

水戸まちなかフェスティバル

さいでスタンプワークショップ」を開催

Farmer's Market @MITO と
書かれた旗と
カレンダーにスタンプして
もらいました

約200人の参加者に
楽しんでもらいました

水戸まちなかフェスティバル

広報の強化	• Farmer's Market @MITOの広報
魅力づくり	• 現状を知り、改善策を考える • 食育
雰囲気づくり	• 完成した旗を泉町会館に飾る

茨苑祭

広報の強化	• Farmer's Market @MITOの広報

Farmer's Market @MITO
やイズミイルについて
まとめた掲示物を
展示しました

食と農の交流ツアー in 行方

- 行方市にある「食と農のテーマパーク ふきのとう」での交流ツアー（1月18日）
- 収穫体験、農場見学、フットパス、ピザ焼き体験、昼食、座談会

いろいろな企画で参加者同士の交流ができました

食と農の交流ツアー in 行方

広報の強化
- Farmer's Market @MITOの広報

魅力づくり
- 参加者同士の交流

商店街おもしろMAP

- 「全国商店街振興組合連合会 地域商店街活性化事業・にぎわい商店街コミュニティ発掘事業」の一環
- イズミイルを含めた人文学部生12人で2つのマップを作成
  →水戸まちなか女子会マップ
  →おひとりさまっぷ

水戸まちなか女子会マップ

- 水戸市中心市街地で、女子会など、グループで楽しむためのマップ
- 1月25日（日）ビレッヂ310開所式にて配布

「おしゃれでおいしく、女子が入りやすいお店を掲載し、まちなかのお店を活用してもらう」がコンセプト

おひとりさまっぷ

- ひとりで水戸市中心市街地を楽しむためのマップ
- 1月25日（日）ビレッヂ310開所式にて配布

「おしゃれ」、「ひとりでも気軽に入れる」がコンセプト

年間を通して

〈成果〉

広報の強化

Farmer's Market@MITOの存在を、沢山の幅広い世代の人に知ってもらうことができた

魅力づくり

水戸まちなかフェスティバルやツアーなどで、人々の交流ができた

雰囲気づくり

水戸まちなかフェスティバルで作った旗を飾り、内装の充実につなげることができた

年間を通して

広報の強化 ◎　魅力づくり ○　雰囲気づくり △

目的：泉町会館を交流と食育の場にする

→ 達成度 ○

年間を通して

〈反省〉
- 全員の意見の反映ができていない時が多々あった
- 一年間のおおまかな計画を早めに確定するべきだった
- 計画倒れになった企画があった
- 早い時期にFarmer's Market @MITOの出店者に話を伺うべきだった
- 企画を行動に移すまでに時間がかかった
- 活動の成果の調査をあまり行えなかった
- 「広報の強化」に偏った活動が多かった

年間を通して

〈学んだこと〉
・人と協働する難しさ
・人との繋がりの大切さ
・まずは行動を起こすこと
・報・連・相の重要性
〈感想〉
・人々の温かさや、交流する楽しさを知った。
・今までの活動でできた繋がりを大切にして、今後も水戸のまちなかと関わっていきたい。

決算

- 授業内予算
  - 水戸まちなかフェスティバル　9,566円
  - 茨苑祭　2,507円
  - 計　12,073円
- 行方市役所による補助
  - 食と農のツアーin行方　往復バス代
- 私費
  - 水戸まちなかフェスティバル　3,785円
  - 茨苑祭　541円
  - 計　4,326円

お世話になった方々

- 泉町二丁目商店街振興組合……　秋山さま　亀田さま　高野さま　宮本さま
- 酒・食事処　茶の間……　秋澤さま
- パーク株式会社……　小松崎さま　羽石さま
- あぐつ農園……　圷さま
- 泉町新鮮市、十銭屋……　森さまをはじめとする泉町新鮮市のみなさま
- 株式会社丸岡……　岡さま
- 協同組合ふきのとう……　小野さま　玉木さま
- 筑波大学大学院……　楫野さま
- ブルーベリー農園そら……　森山さま
- 稲敷市役所……　原さま
- 行方市役所……　坂本さま　宮内さま
- 茨城県農林水産部……　半田さま
- 茨城放送さま
- 食と農の交流ツアー in 行方にご参加いただいたみなさま
- 茨城大学先生方
- プロジェクト実習受講生のみなさま

（所属ごとに五十音順）

イズミイル一同、心より感謝申し上げます。

ご清聴ありがとうございました

2014年度プロジェクト実習B

さとみ・あい活動報告

井上紗希　千葉美香　南 陽子　箭内淳美
板垣里沙　岡本 萌　伊藤美保子

もくじ

- チームの概要、経緯
- 今年度の活動について
- 活動目標、新たな取り組み
- 活動内容、成果
- 反省点
- 学んだこと
- 今後の展望

チームの概要

- 茨城大学人文学部のプロジェクト実習という授業の中で結成されたプロジェクトチーム
- 茨城県常陸太田市 里美地区を フィールドとして活動
- 里美での活動は 今年で3年目

プロジェクト実習の授業の中で「地域おこしがしたい！」という意思を持った人が集まってグループを作る

蜂屋大八先生から「里美地区で活動しないか」という提案

実際に里美地区を訪れて里美の魅力を知る

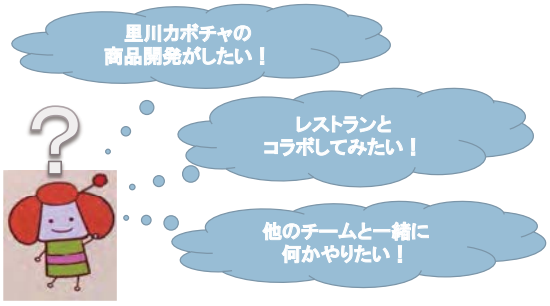
もっと多くの人に里美の魅力知ってもらいたい！！！
若い力が欲しい地域×地域のために活動したい大学生

活動を開始

地域の人との関わりが楽しい！
いつも優しく迎えてくれる地域のためにもっと何かしたい！

活動の継続

今年度の活動について



今年度の活動目標

①学生視点で里美をPRする
→ ・広報の強化
・イベント出店
（ファーマーズマーケット、茨苑祭）

②里美をより元気な地域にする
→ ・里美中学校との交流
・里川カボチャ栽培、地域の方々との交流

今年度の活動

- 6月8日　第1回里美訪問（カボチャの種まき）
- 7月6日　第2回里美訪問（カボチャの苗植え）
- 8月23～25日　8月合宿
- 9月28日　水戸まちなかフェスティバル
- 10月19日　里川カボチャ収穫祭
- 11月15～16日　茨苑祭

今年度の新たな取り組み

・2泊3日の里美合宿

・同じプロジェクト実習で活動する異文化交流チーム（ICEチーム）と共同で、留学生を交えての里川カボチャの収穫

・水戸農業高等学校と共同で里川カボチャの商品開発

・里美に暮らす方々を取り上げたPR冊子の作成

合宿(8/23～25)

1日目
- 里川カボチャ畑の手入れ(草引き)
- 里川カボチャ生産者の方々へのインタビュー
- えみの里のお祭りのお手伝い

2日目
- 里美地区散策
- 水戸農業高校とのミーティング

3日目
- 里美中学校との打ち合わせ
- 水戸まちなかフェス打ち合わせ
- 里美地区在住女性への取材

成果

・里美の魅力を肌で感じることができた

・カボチャ畑の手入れができた

・里美の人々と交流できた

・メンバーの仲が深まった

水戸まちなかフェスティバル(9/28)

成果

- 野菜の完売
- 多くの人に野菜やさとみ・あいの活動をPRできた
- 里美ふるさと振興公社とのつながりができた
- 他のチームとの交流のきっかけとなった

里川カボチャ収穫祭(10/19)

茨城大学
（さとみ・あいチーム、ICEチーム、留学生）
常磐大学、茨城キリスト教大学、水戸農業高校
計30名

収穫したカボチャ
とひとくちカボチャ

異文化交流ゲーム

成果

- 他大学生・留学生との交流が出来た
- ICEチームと協力してできた
- 里川カボチャの魅力を多くの人にPRできた
- 「田舎」の魅力を再発見してもらうきっかけとなった

茨苑祭(11/15,16)

屋外企画：
水戸農業高校食品化学部とコラボした里川カボチャのタルト・里美飲むヨーグルトを販売

屋内企画：
パネル・パンフレット等の展示

・里美で作られたものを使った商品の販売
（里川カボチャのタルト、里美のむヨーグルト）
→タルトは主に水戸農業高校で作成
・パッケージのシールを作成
・里美パンフレットの配布、ラジオでPR
・お客様と会話を交えての接客

成果

- 両日即完売！
- 里美のものを使った商品を提供し、そのおいしさを知ってもらえた
- 自分たちの活動についても知ってもらえた
- 接客や展示、ラジオなどにより、世代を問わず、様々な人に里美をPRすることができた
- 里美へ足を運ぶきっかけを作ることができた

かぼちゃフェス

常陸太田ファーム＆キッチンの一環として開催されたかぼちゃフェスで、常陸太田市内の15の飲食店が里川カボチャを使ったオリジナルメニューを考案、期間限定で商品として提供

さとみ・あいは生産者として関わる
↓
「レストランとのコラボ」を達成！！

里川カボチャの
商品開発がしたい！

実現することが出来た！

他のチームと一緒に
何かやりたい！

反省点

- イベントの準備が遅れてしまったので、
  早め早めに行うべきだった
- メールの確認・情報共有が甘かった
- 役割分担があいまいだった

学んだこと

- 目的を持って行動すること、
  目的を見失わないこと
- 活動していく中で出会った方々との
  関係の大切さ
- 振り返りの大切さ

今後の展望

- 里川カボチャを多くの人に知ってもらうための活動
  来年度以降も水戸農業高校との商品開発に
  取り組んでいきたい
- 私たち自身が地域のことを知り、地域の人たちにも
  私たちのことを知ってもらうための活動
  地域の方々・子供たちとの交流を充実させる
- 「何が里美のためになるのか」ということを常に考えて活動していきたい

お世話になりました！

荷見様ご夫妻、磯部様、里美ふるさと振興公社様、常陸太田市役所少子化・人口減少対策課様、白石様、里美小・中学校様、森林組合　中野様、佐藤美咲様、佐藤みどり様、山田屋旅館　小林様、サンシャイン牧場様、里美の水プロジェクトの皆様、えみの里の皆様、ファーム＆キッチン関係者の皆様、地域おこし協力隊の皆様

人文学部様、鈴木先生、笹川先生、宮本様、ICEチームの皆様

水戸農業高等学校様、JTB関東　西島様

予算のご支援をいただきました！

- 総務省「域学連携地域つくり支援事業」(2012)
- 茨城大学「教育改革推進経費」(2012)
- 総務省「過疎集落等自立再生緊急対策事業」(2013)
- 茨城大学人文学部「就業力育成小委員会予算」(2013)
- 文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」(2013～2014)
- 常陸太田市役所「大学等連携事業」(2014)

皆様のご協力、ご支援のおかげで実りある活動ができました。
誠にありがとうございました。

ご清聴ありがとうございました！

プロジェクト実習活動報告会
International Cultural Exchanges

顧問：杉本妙子先生
リーダー：清野絢
副リーダー：高穎瑜
会計：鄒明傑
渉外：櫻井優美
書記：藤堂みさ都

目次

- 活動目的
- 活動内容および結果報告

①水戸まちなかフェスティバル
②里川カボチャ収穫祭
③茨苑祭
④異文化交流フォーラム「異文化を知ろう！」

- 会計報告
- 一年間を通しての反省
- プロジェクト実習を通して学んだこと

活動目的

活動内容

①水戸まちなかフェスティバル
（泉町二丁目商店街振興組合様との連携企画）
②里川カボチャ収穫祭
（さとみ・あいチームとの連携企画）
③茨苑祭
（こみフェスチームとの連携企画）
④異文化交流フォーラム「異文化を知ろう！」
（一昨年度から継続している3年目の企画）

活動内容①
水戸まちなかフェスティバル

- 日時：2014年9月28日（日）10：00～16：00
- 場所：泉町会館前の道路
- 目的：地域の方々に食を通して
  異文化に関心を持ってもらうため
- 実施内容：異文化スープの販売・フリーマーケット
  〈異文化スープ4種類〉
  わかめスープ（韓国）・ビシソワーズ（フランス・アメリカ）
  酸辣湯（中国）・さとみスープ（常陸太田市里美地区）
- 異文化スープ目標販売数：200食

スープの写真

酸辣湯

わかめスープ

ビシソワーズ

さとみスープ

当日の様子

結果①水戸まちなかフェスティバル

- 販売時間　異文化スープ：10:00～14:30(完売)
  フリーマーケット：10:00～15:45頃
- 売上
  【異文化スープ】
  計　146食　23,400円
  【フリーマーケット】
  売上　7,780円

〈よかった点・反省点〉
- ・スープの用意した分は完売することができた
- ・積極的に呼び込み、声掛けを行うことができた
- ・スープを目標の200食分用意することができなかった
- ・人手不足で協力者を募るべきだった

活動内容②里川カボチャ収穫祭

- 日時：2014年10月19日（日）10:30～17:00
- 場所：常陸太田市里美地区
- 参加者：さとみ・あいチーム、ICEチーム
  茨城キリスト教大学生
  常磐大学生
  水戸農業高等学校生
  総勢　34名
- 目的：留学生に、日本の田舎を知ってもらうこと
  他大学生・高校生や地域の方との
  交流の場を設けること

活動内容②里川カボチャ収穫祭

- 実施内容
  - ・里美地区の見学
  - ・里川カボチャの収穫
  - ・ゲーム　※ICEチーム司会・進行
  - ・ディスカッション
  - ・里川カボチャの調理、試食

当日の様子

結果②里川カボチャ収穫祭

〈よかった点〉
- ・異文化交流というチーム目的が達成された
- ・当日積極的に行動できた
- ・留学生を特に気に掛けることができた

〈反省点〉
- ・留学生の募集期間が短くなってしまった
- ・連携先との連絡がうまくいかなかった
- ・全体監督をひとり決めておくべきだった

活動内容③茨苑祭

- 日時：2014年11月15日（土）/16日（日）
  9：30～17：30(16日は17:00終了)
- 場所：茨城大学水戸キャンパス
  （人文23番教室・教育学部棟前通路）
- 目的：留学生に日本の文化に触れてもらったり、
  地域の方と大学生・留学生の交流の場を作るため
- 実施内容
  こみフェスチームと連携し、市民団体の方々の補助
  ・折り紙(連鶴)体験(一日目)
  ・カプラの積み木(二日目)

当日の様子

結果③茨苑祭

〈よかった点〉
・チーム内で役割を回すことができた
・チラシ配りなどで呼び込むことができた
・市民団体の皆様と協力して盛り上げることができた

〈反省点〉
・チーム紹介の展示を行うべきだった
・さとみ・あいチームの後片付けを把握しておらず、
時間がかかってしまった

活動内容④異文化交流フォーラム「異文化を知ろう！」

- 日時：2014年12月14日（日）10：00～：17:00
- 場所：茨城大学水戸キャンパス
  人文C棟406教室・図書館一階共同学習エリア
- 目的：異文化とは何かを知り、理解してもらうこと
  高校生・大学生・留学生が
  相互に交流する場を設けること
- 学生スタッフ：茨城大学日本人学生・留学生
  茨城キリスト教大学日本人学生
- 高校生参加者：茨城キリスト教学園高等学校様
  水戸第二高等学校様
  水戸桜ノ牧高等学校様
  水戸桜ノ牧高等学校常北校様
  総勢　76名

活動内容④異文化交流フォーラム「異文化を知ろう！」

- 実施内容

・横溝環先生による特別講義(高校生対象)
・アイスブレイク(自己紹介)
・100人村ワークショップ
・100人村ディスカッション
・留学体験談

当日の様子

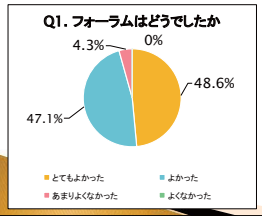
結果④異文化交流フォーラム「異文化を知ろう！」

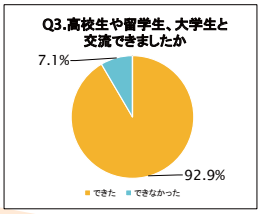
〈アンケート結果〉

参加者に事前に作成したアンケートを配布した

回答者：参加者76名のうち70名

質問は「はいorいいえ」の回答＋理由　の全9項目





結果④異文化交流フォーラム「異文化を知ろう！」

〈アンケート結果より〉

・全体としてプラスの意見が多かった

・留学体験談や100人村ディスカッションがフォーラムの中でよかったと回答する人が多かった

・普段接する機会のない人と交流することができたという意見があった

〈特別講義レスポンスより〉

・「異文化」に対して複数のものの見方で考えることができた

・自身の価値観で文化を捉えていたことに気づけた

・異文化が身近にもあることに気づけた

・「異文化」を学ぶと同時に「異文化理解」の難しさも学んだ

結果④異文化交流フォーラム「異文化を知ろう！」

〈よかった点〉

・学生スタッフが自覚を持って行動してくれた

・参加者が積極的に活動してくれた

・異文化交流に留まらず、異文化理解にまで発展することができた

〈反省点〉

・シミュレーション不足な点があり慌ててしまった

・参加者の配慮をもっとすべきであった

→ディスカッションの議題が難しかったとの意見があった

・活動ごとに目的を明示するべきだった

会計報告

配分予算額

278,000円(学生地域参画プロジェクトより)

執行済総額(暫定)

160,824円

消耗品、交通費、印刷費など

残額

108,176円

未執行品：発電機借用料、交通費、保健所申請料など

一年を通しての反省点

・当初予定していた留学生の高校訪問ができなくなった

・目的を参加者に明示するべきだった

・留学生に日本文化を知ってもらう要素が少なかった

・留学生の募集方法を工夫するべきだった

・たくさんイベントを企画できたが、その半面、フォーラム以外のイベントに時間をかけることができなかった

・水戸まちなかフェスティバル以降は反省を生かして綿密な準備ができた

・去年までやらなかった新しい企画をすることができた

プロジェクトを通して学んだこと

・チーム内での情報共有の大切さ

・想定を行うことの大切さ

・報告、連絡、相談の「ほうれんそう」の大切さ

・社会人としてのマナー

・人を動かすことの難しさ

・連携することの難しさを学んだと同時に、責任を持って行動することが大切だとわかった

ご清聴ありがとうございました！
A Dreamy World
International
Cultural
Exchanges

こみフェスチーム～活動報告会～

リーダー　川井奈々
会計　田山達也
書記　南陽子

目次

1．こみっとフェスティバルについて
2．市民活動団体について
3．活動目的
4．活動内容
　①実行委員会
　②ボランティア
　③水戸まちなかフェスティバル
　④習志野市　視察研修
　⑤茨苑祭
　⑥インターンシップ
5．会計
6．まとめ

1．こみっとフェスティバルについて

・水戸市の市民活動団体（NPO・ボランティア団体等）を市民に紹介するフェスティバル
・知ってもらうだけでなく参加の促進を図る

日程　２月２１日（土）　１０：００～１６：００
　　イオンモール水戸内原
参加団体数　２７団体（予定）
テーマ　自分にできることを探してみませんか？
内容　ステージ発表コーナー
　　市民活動相談・紹介コーナー　→茨大ブース
　　物販・体験コーナー

2．市民活動団体について

現在の水戸市の市民活動団体
NPO　124　　水戸こどもの劇場（子育て支援）
　　蛍の会（知的障害者の生活支援）
　　虹の会（福祉施設）　等

ボランティア団体　約120　　朗読ボランティア「コスモス」
　　茨城県世界青少年コミュニケーションクラブ
　　水戸市環境保全会議　等

実状
・市民の認知度が低い
・高齢者が多い
・団体同士のネットワークがない

課題
・市民の認知度を高める
・若者の参加を集う
・団体同士のネットワークをつくり活動の幅を広げる

地域間での連携が生まれ協働社会ができる！

3．活動目的

“こみっとフェスティバルを成功させ
市民活動団体について多くの人に知ってもらおう”
↓
広報活動
参加者を多く集い、
自分にできることを探すための
企画・運営の工夫

4-① 実行委員会

- 月１回（主に第４水曜日）集まり、こみっとフェスティバル当日に向け話し合った
- 第1～3回：場所、日時、テーマ、各部門のリーダー等の検討・決定
- 第4～6回：広報活動・各分科会の実施、会場図・消耗品・備品の確認等
- 第7回：各出展・発表内容の確認、パンフレット・係員配置等の検討
- 第8回：ステージ・ホールの各出展団体・ボランティア等の係員の打合せ

4-② ボランティア体験

- 8月から11月にかけてボランティア活動へ参加
- どんな活動をしているのか、実際に体験させていただきました

- 参加した活動例
- 老人ホームでのレクリエーション(はつらつサークル)
- カプラ体験(水戸市子供劇場)
- 環境フェスティバル(水戸市環境保全会議)
- マラソン大会(蛍の会)

4-③ 水戸まちなかフェスティバル

- 2014年9月28日(日)に行われた「水戸まちなかフェスティバル」への参加
- イベントの運営・企画の体験
- 株式会社「パーク」様の「一箱古本市」という企画に関わる

- イベント運営の大変さや準備の大切さを学ぶ
- たくさんの方にお越しいただき、「こみフェス」の宣伝も行えた

4-④ 習志野市 視察研修

- 日にち：2014年11月２日（日）
- イベント名：第11回市民活動フェア「みんなでまちづくり～ふれあう！つながる！！　Ｌｏｖｅ習志野」
- 会場：千葉県習志野市市民協働インフォメーションルーム（サンロード津田沼ビル）
- 習志野市では，来場者に対し「メッセージ・ツリー」へ「幸せになる言葉」を掲示してもらっていた。
- 各会場の案内・誘導のほか，一般来場者への中継案内が重要な役割
- 感心がある人はもちろん、そうでない人をいかに呼び込むか？

4-⑤ 茨苑祭（2014/11/15.16）

- 目的・方法：こみっとフェスティバルの告知→チラシ配布、口頭での呼びかけ等
  市民活動団体について知ってもらう→模造紙を使った展示、説明
  来場者と市民活動団体の交流→１日目：はつらつサークル様（連鶴、折り紙）
  ２日目：水戸こどもの劇場様（カプラの積木）

- 成果：こみっとフェスティバルを周知することができた、来場者と市民活動団体が交流できた
  多くの人に市民活動団体について知ってもらえた、PR・説明力が上がった
  こみフェスメンバーと実行委員会（市民活動団体）の仲が深まった

4-⑥ インターンシップ

- 実施日　平成２６年８月１８日（月）～２５日（月）　（土日を除く）
- 配属先　地域振興課　協働係
- 内容　研修の見学
  ワーキンググループ会議の打ち合わせの参加
  担当者からの説明（協働について、協働都市宣言の説明等）
  他県での市民活動フェアの事例調査
  NPO情報コーナーの見学
  「地域ブランディング戦略研修」に参加

水戸市役所の皆様、ありがとうございました！

学んだこと

- 企画・運営の大変さ
  →事前準備の大切さ、想定外の事への対応、十分な人数の確保

- 人との繋がりの大切さ
  →様々な人の協力のおかげで活動を形にできたり、色んなイベントに参加することができた

- 目的を持って行動することの重要性
  →何のためにイベントに参加するのかを意識することで、最終目標を達成するためのスキルを身につけられる

5．会計

- 水戸まちなかフェスティバル：**5,166円**
（ノリパネ：2,000円、画用紙、ポスカ、袋などの雑費：3,166円）

- 茨苑祭：**1,813円**
（模造紙：194円、のり：755円、テープ：864円）

●**合計：6,979円**

6．まとめ

- こみっとフェスティバルの本番は、2015年2月21日である。
- 今までの活動を通して学んだ、協力し合うことや早めに準備することを心がけ、今後も気を抜かずに準備・広報活動を行っていきたい。
- そして、このイベントで多くの人が市民活動団体について知り、参加促進に繋がることを願いたい。

ご清聴ありがとうございました！

こみっとフェスティバル当日もどうぞよろしくお願いします💛

水戸市 公共交通チーム
活動報告
2015.1.31

顧問　田中耕市先生
リーダー　赤津遼馬
副リーダー　新井真夏
書記　鈴木円香
会計　鎌田綾香
根本貴彬

○発表内容

1. チーム概要
2. 活動内容
   (1)水戸まちなかフェスティバル
   (2)茨苑祭
3. 活動のまとめ
4. 今後の課題
5. 会計報告

1. チーム概要

水戸市役所様からの公共交通の利用促進に関する取り組みのご提案により結成

公共交通の継続的な利用の促進を目指す

水戸市内における生活の中での交通手段として公共交通の利用促進
⇒水戸市の公共交通の中心であるバスに着目

継続的な利用の促進の短期間での達成は困難
⇒目標達成につながる一つのプロセスに

2. 活動内容

バスの利用促進につながる手段
- 運行ルートの見直し
- 運賃の値下げ
- ICカードの導入　　など

⇒学生による実現は困難

⇒利用者目線で不便だと感じる部分を改善

バス停の表示がわかりにくい
- 時刻表が見にくい
- バス会社によって時刻表がバラバラ
- 目的地までの運賃が分からない　　など

⇒利用者の目線でわかりやすい表示に

茨城交通株式会社様のバス停を対象に

目標：試作品作成で終わらず、利用者から評価を得る

自分たちの経験からバス停表示を改良・試作品作成
⇓
水戸まちなかフェスティバルで展示・アンケート調査
⇓
アンケート調査から意見を取り入れ、試作品を改良
⇓
茨苑祭で展示し、3つの試作品から最も評価が高いものを選出

(1)水戸まちなかフェスティバル

2014年9月28日
水戸まちなかフェスティバルに出展

泉町一丁目のバス停を対象に路線図・時刻表の試作品を作成

路線図・時刻表の試作品の展示とアンケート調査を実施
(アンケート回答者数 49人)

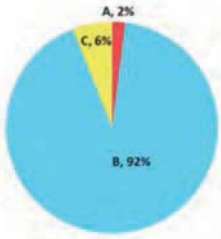
路線図について

従来の路線図、イラストありの路線図、イラスト無しの路線図のうち、どれが最も良いか

A.従来の路線図　2%

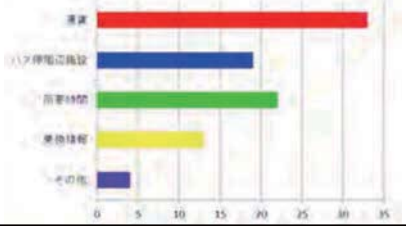
B.イラストあり　92%

C.イラスト無し　6%



路線図に必要な情報は何か(複数回答)

運賃	33
バス停周辺の施設	19
所要時間	22
乗り換え情報	13
その他(地図、遅延情報、道路状況)	4



時刻表について

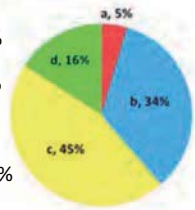
従来の時刻表と平日、土、日祝ダイヤをそれぞれ分けた時刻表と平日、土、日祝ダイヤを1つにまとめた時刻表と横向きの時刻表のうち、どれが最も良いと思うか

a.従来の時刻表　5%

b.ダイヤごとに分けた時刻表　34%

c.ダイヤを一つにまとめた時刻表　45%

d.横向きの時刻表　16%



(2)茨苑祭

2014年11月15,16日
他のプロジェクトチームと合同で出展

茨大前営業所のバス停を対象に、水戸まちなかフェスティバルでのアンケート結果をふまえて試作品を作成

路線図・時刻表の試作品の展示とアンケート調査を実施(アンケート回答者数 60人)
→最も評価の高い試作品の選出

路線図について

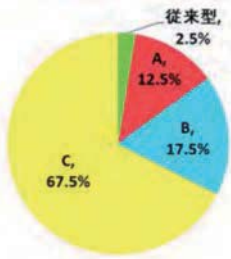
従来の路線図、イラスト無しの路線図、周辺情報の路線図、イラストありの路線図のうち、どれが最も良いか

従来の路線図　3%

A.イラスト無し　13%

B.周辺情報あり　18%

C.イラストあり　68%



時刻表について

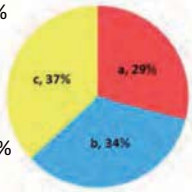
従来の時刻表、土曜日欄がある時刻表、平日・土日祝がまとまった時刻表、横向きの時刻表のうち、どれが最も良いか

従来の時刻表　0%

a.ダイヤを一つにまとめた時刻表　29%

b.ダイヤごとに分けた時刻表　34%

c.横向きの時刻表　37%



3. 活動のまとめ

試作品の導入には各バス停ごとに合わせた路線図・時刻表の作成が必要

→莫大なコストがかかる

⇓

作成した試作品を部分的に抽出し、今後のバス停表示の改善に取り入れるべき要素として提案

- 文字は出来るだけ大きく
- 色と記号を併用した分け方
- 時間軸を横向きにした時刻表
- 運賃やバス停周辺の情報を加えた路線図
- イラストを加えた路線図　など

4. 今後の課題

- 水戸市内で運行している他のバス会社と統一したバス停表示の作成
- 文字を大きく表示するための工夫
- すべての利用者に分かりやすい表示の作成
- 観光客など市外から来た利用者に対しても便利なバス停表示の作成

5. 会計報告

品目	用途	参考価格	個数
インク	名刺作り、試作品印刷	6156円	1
クリップボード	イベント(まちフェス・茨菊祭)でアンケート記入時使用	450円	5
コピー用紙A3	試作品印刷	896円	1
ブロッキー黒単体	試作品作成(まちフェス・茨菊祭)	162円	5
ブロッキー8色セット	試作品作成(まちフェス・茨菊祭)	1,296円	1
模造紙	試作品作成(茨菊祭)	699円	1
ボンド木工用		286円	3
両面テープ	試作品作成(まちフェス・茨菊祭)	540円	3
スティックのり		350円	3
のりパネ	試作品作成(まちフェス・茨菊祭)	1,000円	4

計　19,635円

プロジェクト実習

先進地実地研修

趣旨と実績

キャリア教育部長　鈴木敦
suzukia@mx.ibaraki.ac.jp

1

鈴木の専門性は

専門：中国考古学
　　特に甲骨文字の解読と文字コード化
学歴：文学部→文学研究科（共に考古学専攻）
教歴：中国語・文化財情報学・博物館学
　　・日本語文章作法・中国考古学
キャリア教育と関わり：
　　「卒業生50人と就職の話をする会」主催
　　→就業力GP獲得→キャリア教育部長

要するに

シロウトなんです・・・

2

シロウトの~~苦闘~~ 狗盗

＜ＰＢＬって何？＞からのスタート

- 概念は「まなぶ」
  京都大学・溝上慎一先生　　他
- 実践は「まねぶ」
  同志社大学・山田和人先生
  聖 泉 大 学 ・有山篤利先生
  他
- 経験者は「まねく」
  有山先生と学生リーダーの皆さん
  山形大学・蜂屋大八先生
  愛媛大学・庭崎　隆　先生　　他
- 体験は「なりふりかまわず活かす！」
  PBLの運用は、発掘実習の運営だ！（鈴木の場合）

かくして
出張魔と化す

3

それでもなんでも
プロジェクト実習は、お陰様で三周年！
問題は・・・

井の中の蛙、大海を知らず

4

１：ＰＢＬは西高東低

同志社大学ＰＢＬ推進支援センター
コンソーシアム京都加盟の諸大学　等

２：東の雄・山形大学

ＦＤ・ＳＤ・大学間連携・地域連携
エリアキャンパスもがみ「FW共生の森もがみ」
大地連携ワークショップ　　等々

３：さすが東京・役者がいっぱい

社会人基礎力育成グランプリ
産学連携ツーリズムセミナー　等々々

5

「井の中」から抜け出すために

履修生にこそ「まなぶ」「まねぶ」機会を！

そこで・・・

先進地実地研修の趣旨

(1)PBL授業の先進的な取組を行っている組織・地域を実地に訪ねてその実績と課題に学び、自分たちの活動と対比分析して、今後の活動に活かす

(2)研修の成果を、プロジェクト実習履修の全メンバーに向けて発表することで還元し、プロジェクト実習全体のレベルアップに貢献する

6

2013年度実績

公益社団法人　日本観光振興協会主催
第10回産学連携オープンセミナー予選会(2名派遣)
http://www.nihon-kankou.or.jp/home/committees/report/event/20140228.html
2013年12月15日　於：野村不動産天王洲ビル・ウイングホール

発表題目(抄)

- ビッグデータの観光振興への活用(明治大学政治経済学部)
- 食料産業クラスターによる地域ブランドの確立～戦略マネジメントの視点から～(早稲田大学商学部)
- 草の根インバウンド振興が築く新しい時代～Tourism ambassador of Japan is yours～(立教大学観光学部・帝京大学経済学部・跡見学園女子大学マネジメント学部　合同)
- 雨の日の観光を考える(首都大学東京都市環境学部)
- 新しい観光需要をつくる～記念日旅行を盛り上げよう～(東洋大学国際地域学部)
- 東京オリンピック2020をインバウンド誘致につなげる為に日本が取り組むべき事(一橋大・院・商学研究科経営学修士コース)

7

2014年度計画

(1)「近郊」「遠郊」の二本立てに拡充
(2)「近郊」は東京周辺まで・履修生全員派遣を目指す
　→2015年2月12日・関越Gシンポジウム
(3)「遠郊」は東京以遠・履修生代表者若干名を派遣
　→2014年11月29－30日・山形県最上郡金山町

実施の前提

(1)催事参加では、適切な内容・適切な開催時期
　→意外に難しい。
(2)独自計画では、先方のご協力
　→2014年度「遠郊」は、手厚い協力体制。感謝。
(3)催事参加・独自計画とも安全第一
　→保険(履修前提として加入済)・交通手段・治安等

8

2014年度「遠郊」の実施

二つの候補

(1)同志社大学PBLフォーラム
　→プロジェクト実習A・C・Dの「本家」。2014年度から開始した、「学外からのプロジェクト募集」においても先駆的存在。
　→日程が合わず、断念。

(2)山形大学エリアキャンパスもがみ
　→プロジェクト実習Bの「本家」。近年、注目度が高まっている「地域連携系PBL」。COC採択を受けて、今後一層充実が求められる分野。
　→独自計画。金山町と山形大学学生サークル「チーム道草」のご協力で実現。

9

「エリアキャンパスもがみ」と「フィールドワーク共生の森もがみ」(1)

1：エリアキャンパスもがみ設立の経緯

http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/yam/about/index.html

(1)2003年山形大学第一回SD研修会。参加職員が3人一組で「大学にできる地域貢献」を模索。
(2)新庄市に入ったチームが「最上広域圏活性化」を提起。
(3)(2)に呼応して最上広域圏8市町村の教育長会が「地域から大学への要望」として取り纏め。
エリアキャンパスもがみの原型が誕生。

10

「エリアキャンパスもがみ」と「フィールドワーク共生の森もがみ」(2)

(4) 種々調整を経て「市町村が保有する施設を有効利活用し、学生が自身の専門性と興味に基づいて教職員や地域住民と一緒になって主体的に活動し、地域の活性化と人材育成に寄与する」という基本線が定まる。
(5)2005年3月、8市町村の首長と山形大学学長の間で連携協定が締結され、正式に発足。
(6)2006年4月、具体的な教育プログラムとして「FW共生の森もがみ」開講

＊SD（FDではない！）に発する職員の活動に、地域が対応して成立

11

「エリアキャンパスもがみ」と「フィールドワーク共生の森もがみ」(3)

2：フィールドワーク共生の森もがみ(1)

http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/yam/mogami/index.html

(1)半期・2単位・教養科目。
(2) 8市町村による「授業提供」＋山形大学独自予算
　→「教育長会の要請」に発する流れから

＊今回の本学先進地実地研修では、
金山町教育長　　樋口勝也様
金山町町議会議員　沼澤道也様
金山町役場職員　　丹健一郎様　他、
多くの地域住民の皆様のご支援を戴きました。
記して感謝申し上げます。

12

「エリアキャンパスもがみ」と「フィールドワーク共生の森もがみ」(4)

2：フィールドワーク共生の森もがみ(2)

(3)「一泊二日×2回のFW」と「事前学習ー中間学習ー最終レポートー活動報告会」を核とし、地域住民と受講生OBが運営を支える、システマティックな授業構成。

→前提として、教員による周到な授業設計
→「調べる」「書く」「発表する」機会を多数盛り込む
たとえば「書く」については
①希望調査票における希望理由
②第一回フィールドワークに先立つ下調べ
(字数制限無し)
③第一回レポート（200～400字）
④第二回フィールドワークに先立つ下調べ
(字数制限無し)
⑤第二回レポート（200～400字）
⑥最終レポート（1,000字程度）

13

「エリアキャンパスもがみ」と「フィールドワーク共生の森もがみ」(5)

2：フィールドワーク共生の森もがみ(3)

(4)近年は、コンスタントに年間300人程度が履修。
→1年次向けの為、タコ足キャンパスにも拘わらず全学部からの履修者。異なる背景を持つ履修生が同一チームを組むことで「化学反応」が期待できる

→2014年度前期実績：

人文学部	30名
地域教育学部	44名
理学部	21名
医学部	14名
工学部	34名
農学部	47名
その他	1名

（計191名）

14

「エリアキャンパスもがみ」と「フィールドワーク共生の森もがみ」(6)

2：フィールドワーク共生の森もがみ(4)

(5)履修後の自発的活動(「もがみ協力隊」・「チーム道草」・「ともしび」等)並びに有償での活動への発展
→授業運営への参画(学生サポーター)・タウンミーティング・山形大学見学旅行・地域のお祭りその他諸活動への参画　等々、多種多様

＊今回の本学先進地実地研修では、「チーム道草」リーダーで、山形大学工学部学生の伊藤大貴様始め学生メンバー計6名が、予算を自己調達の上でご支援下さいました。
記して感謝申し上げます。

15

「エリアキャンパスもがみ」と「フィールドワーク共生の森もがみ」(7)

2：フィールドワーク共生の森もがみ(5)

(6)教職協働＋地域連携で、各者がメリハリの利いた「連携と委嘱」
→総体としての大きな負担と個々人の効率的関与
・フィールドワークへの教職員による引率なし
（履修経験者が有償で同行）
・現地でのプログラムの内容決定・運用並びに成績評価は現地講師(主体)　等

▲
▼

・教員による、現地講師へのFD実施
・報告会リハーサル指導等、個別指導も徹底　等

16

「エリアキャンパスもがみ」と「フィールドワーク共生の森もがみ」(8)

2：フィールドワーク共生の森もがみ(6)

(7)成績評価基準の整備と実務の効率化
①フィールドワーク活動への参加：30%
→エビデンスはレポート
②現地講師による活動評価　：40%
→評価基準明示・現地講師向けFD
③活動報告会での発表　：20%
→審査員は教員
④受講生相互評価　：10%
→学生自らも(自分自身を含めて)評価に参画

しっかりと設計された制度に則り
部分点を機械的に合算することで
評価の公平性を担保すると同時に
評価者の負担も大幅に軽減

17

2014年度 先進地実地研修の成果

1：教員にとって

(1)授業設計に関する種々の知見
(2)授業運営に関する種々の知見
(3)職員・地域の方々との「繋がり方と離れ方」
(4)担当者としての「覚悟」
等々、現時点では甚だ未消化ながら・・・

2：学生にとって

さぁ！報告へ行ってみよう！！　∠(-o-)／

18

謝辞

今回の先進地実地研修で
お世話になりました
全ての皆様に
この場を借りて厚く御礼申し上げます

キャリア教育部長　鈴木敦
suzukia@mx.ibaraki.ac.jp

19

ご清聴、感謝申し上げます

キャリア教育部長　鈴木敦
suzukia@mx.ibaraki.ac.jp

20

1

プロジェクト実習
山形実地研修報告

板垣里沙、伊藤美保子、井上紗希
星野由季菜、箭内淳美

2

目次

- 研修概要
- 研修目的
- 金山町について
- 活動報告　1日目
  2日目
- 金山町での取り組み
- 比較考察
- 学んだこと・まとめ

3

山形実地研修概要

(1)実施期日
2014年11月29日(土)・30日(日)

(2)実施場所
山形県　最上郡　金山町

(3)参加者
引率教員　2名(鈴木敦先生、笹川貴吏子先生)
プロジェクト実習履修生　5名

4

山形実地研修の目的

①現地の人々との交流を通して、金山町での活動や取り組みを学び、今後の活動の参考にする。

②有志で地域振興活動を行っている山形大学の学生団体「チーム道草」との比較を通し、自分たちの活動を客観的に振り返る。

5

金山町について

http://www.town.kaneyama.yamagata.jp/weblog/900/

- 「町並み景観づくり100年運動」
- 在来作物
- エリアキャンパスもがみ

- 人口
  およそ6,200人
- 面積
  161.79平方km

金山住宅

6

1日目

- 金山町町議・農業委員の沼澤道也さんからのお話

①四季の学校・谷口の設置と現在に至る経緯

②山形県における伝承野菜の保全・活用の取組み

③金山町の代表的伝承野菜「漆野いんげん」の紹介

7

金山町の在来作物
漆野いんげん

8

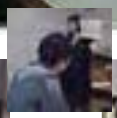
・1日目夜　夕食＆交流会

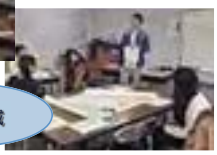
①里美地区における地域おこし協力隊の取組紹介
②さとみ・あいメンバーによるプロジェクト実習の紹介
③金山町の取組紹介
④山形大学学生代表による「チーム道草」の活動紹介

9

2日目
振り返りワークショップ

テーマ：『地域∞私』





自分×地域

10

金山町探索

11

比較考察

- 里美地区と金山町の共通点
  - ・自分の地域をどうにかしたいという意識がある
  - ・自分の地域に誇りを持っている
  - ・地域の人が学生の活動をあたたかく受け入れてくれる
- プロジェクト実習（さとみ・あい）とチーム道草の共通点
  - ・地域のために何かしたいと考えている
  - ・地域の魅力を語れる、地域が好き
  - ・自分たちで活動内容を考え、実行する

12

・プロジェクト実習（さとみ・あい）とチーム道草

	さとみ・あい	チーム道草
運営形態	授業の中の1グループ	サークル
人数	7人	約50人
メンバーの所属	主に人文学部 3大学連携	山形大学の様々な学部 （人文、教育、工、理など）
活動費	授業予算など	助成金を自ら取得
結成の経緯	プロジェクト実習 →地域おこしに携わりたいという有志でグループ結成 →里美に出会う	フィールドワーク共生の森最上 →金山町に出会う →地域に関わり続けたい仲間でサークル結成
活動内容	少人数であるゆえ、地域に密着した活動に厳選	メンバーの興味関心に対応した多岐にわたる活動

13

学んだこと・まとめ

- 特産物をただPRするだけではなく、「産業」として成功させることも大切
- 街並みそのものを地域の魅力にするという発想
- 人を呼び込むために無理に開発をするのではなく、そこにある普段の生活を大切にするという考え
- “ソト”である外部の視点が大切

→当たり前のものがソトから見ると魅力的である

- 自分たちがかかわる地域を自分たちで案内できるくらいに、学び理解する必要がある

14

学んだこと・まとめ（プロジェクト実習に還元したいこと）

- 授業ではなく有志で取り組む同世代の学生がいるということ
- 学生の学びや挑戦意識や若い力を地域のニーズと繋げていくことで双方の可能性を広げていく地域づくり
- 幅広い分野の学生が協力して取り組むことで多角的な視野で課題を分析できる

→今後の活動に活かす

15

ご清聴ありがとうございました！

茨城大学 Ibaraki University　地(知)の拠点

茨城大学「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」

「茨城と向き合い、
地域の未来づくりに参画できる人材の育成事業」

茨城大学は、文部科学省の平成26年度COC事業に採択されました。

平成26年度は237件の申請から25件が採択され、茨城県では茨城大学が唯一の採択です。取組み期間は平成30年度までの5年間です。

http://www.coc.ibaraki.ac.jp/

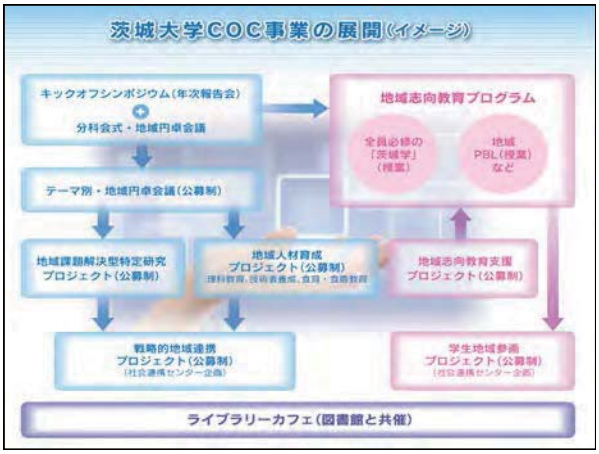
COC事業とは:

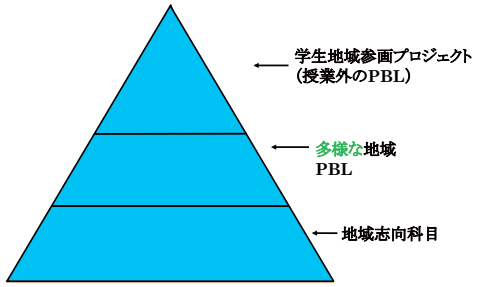
大学等が自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的とする(文部科学省HP)。

茨城大学の連携先自治体・企業等

茨城県、水戸市、日立市、阿見町、高萩市、常陸太田市、常陸大宮市、東海村、大洗町、茨城町
(株)常陽銀行、(株)筑波銀行、(株)ひたちなかテクノセンター、(公財)日立地区産業支援センター、茨城産業会議

連携先を起点に広く地域の方々と交流しながら事業を進めます。





茨城学

茨城の歴史・地理・文化・産業などの学修を通じ、学生に茨城についての理解を深めさせ、同時に地域を多角的に捉え課題を考える力を身に付けさせます。

～地域振興と世界への情報発信～

1	地域振興と世界への情報発信のための茨城学	テーマ別の教員パート
2	茨城の自然資源を活用した地域振興と世界への情報発信	
3	茨城の歴史と風土を活用した地域振興	
4	茨城の農業を生かした地域振興	
5	科学技術による地域振興と世界への情報発信	
6	グローバルな視野を持って地域に貢献できる人材の育成	
7	世界へ発信しよう茨城の美術と文化	
8	大学と連携した市民の活動と地域振興	
9	振り返り	
10		
11		
12	地域別の自治体パート	
13		
14		
15	全体のまとめ	

1回の授業構成
40分の講義
↓
20分の学生のまとめ(振り返り)
↓
5分間の学生間意見交換
↓
25分の講師と学生のディスカッション

COC事業　学生地域交流隊

学生の学内外での活動を、学内・地域で紹介すべく、学生にシンポ、地域円卓会議、ライブラリカフェに参加してほしいと考えたもの。さらなる活動につながることも期待。

茨城と向き合い、地域の未来づくりに参画できる人材の育成事業
～グローカルな視野と対応を通じて～

文部科学省 地(知)の拠点 茨城大学

茨城大学 Ibaraki University

茨城が変わる

究極の目的】
地域を拠点に、県外と世界に誇れる、開かれた茨城の創造

地域課題】 グローバル対応と多文化共生を念頭に
1.人口減少地域の地域振興
2.中小企業の競争力強化支援
3.農業振興
4.地域の教育力向上支援

茨城「大学」が変わる

地域志向大学宣言】
地域に学び、地域に還元し、大学と地域が共に成長する拠点

課題解決への強み】
県北 ·県央 ·県南に拡がる3つのキャンパスに5つの学部を有する総合大学

自治体等と連携してなにをどうするのか

❶地域に頼られる学生 ·留学生の育成
❷地域の課題解決と活性化
❸地域人材のブラッシュアップ
❹学内外での交流拠点の構築
円卓会議 ·ライブラリカフェ等
❺学長がトップのCOC統括機構の設立

多様な地域特性をもつ茨城では、一点突破でなく、各地域課題に同時に取り組まねばならない

地域志向教育プログラムの設立

主に地域での教育を通した学生の育成（上記❶該当）

地域を多角的に捉えながら地域課題と向き合い、1年次から大学院まで一貫して受ける、学部横断のアクティブラーニング

すべての学生が受講し、自治体や企業等と連携しながら行う「茨城学」

＋

多様なPBL（課題をもとにその解決等を通して学習する講義）

真剣に挑む学生が、大学全体と地域を変えていく

効果 学生の成長機会、地域住民や経営者等の地域での役割の再認識から

地域に役立つ研究と実践

学生と教職員の活動が連動した地域課題への取組み（同❷）

シンポジウムや地域円卓会議等から課題を共有

▼

成果目標を明確に、学内外横断で取り組む、地域課題解決型特定研究プロジェクトの展開

効果 研究の蓄積 実践、社会事業化等から

社会貢献

主に教職員の活動による地域人材ブラッシュアップ（同❸）

理科教育、技術者養成、食育 ·食農教育などの地域の教育力向上支援に重点

▼

地域PBLや研究活動と連動して、社会貢献の枠組みを超えたものへと展開

効果 協働 ·共創の関係への進化から

地域住民が当事者意識を持って、グローカルに地域の未来を考える社会の実現

常磐大学のPBL

2015年1月25日現在

常磐大学国際学部
経営学科長　村山元理

大学全体

プロジェクトA（２－４年）：特別企画科目。１年間

プロジェクトB（３－４年）：特別企画科目。２年間の後半の１年間。

特別企画科目（海外研修も）は「相互乗り入れ制度」20単位に参入できる。

プロジェクトA：松原哲也担当（美術史、健康栄養学科）

健康栄養学科の有志の会（秦順一先生の協力）で6年間実施。2年前から正式科目。常陸太田市との地域連携協定からの課題で、耕作放棄地（金砂郷上利郷、木村さんの絶大な支援）を借り受けてトキワファームの運営。農作物（小麦、そば、じゃがいもなど）の種まきから収穫祭まで。イノシシの肉の調理。年間土日10回現地へ車2台（登録者7名）。地域が抱える課題を可能性に変える試み。常磐祭にピザ窯の出店。

ひたちなか市商工会議所との連携：枝川圃場で合鴨農法による稲作の実施。第二種兼業農家たちの高齢化への支援として喜ばれる。

プロジェクトA：長谷川、村中・北根担当：受講者ナシ

心理学科（心理学科長　渡邉孝憲）

心理学科では3年生の科目である「基礎応用心理学実験実習」がそれにあたるかと思います。

学生は数人ずつのグループに分かれ，それまでに学んできたことを参考にして自らテーマを決め，文献を調べ，研究デザインも考え，実際に実験などを行ってデータを集めて分析，考察をするというものです。

このとき教員の方からは積極的にはアドバイスを与えたりせず，時々進み具合をチェックしたり，学生から質問があればそれに答えるという形で，ほぼ学生が自主的に共同で研究を行うというものです。

すみません，私は臨床系なのでこれにはかかわっておらず，どのようなテーマが選ばれているのかについての資料を手元にはもっていません。ですが，相当先生方も学生も力を入れて行っている科目です。

セメスターの最後には発表会も行っています。

教育学科（教育学科長　吉江森男）

○授業「学びの技法Ⅰ」、「学びの技法Ⅱ」

- 一斉授業、グループ活動、個別活動を適宜組み合わせて、教育に関する新聞記事・文献・資料の収集・読解・紹介、これらを引用した自説の叙述、討論、発表等を行っている。

○授業「初等教育実習（事前事後指導を含む）」、「中等教育実習Ⅰ（事前事後指導を含む）」、「中等教育実習Ⅱ（事前事後指導を含む）」

- 事前指導では、教育実習の心構え・手順・マナー、学習指導案作成の仕方、学級担任のあり方等、基本的な事項を学ぶとともに、模擬授業を通して学習指導の方法や技術を実践的に習得する。
- 教育実習では、教師としての基礎的実践力を養い、自らの教職への意志と適性を確認する。
- 事後指導では、実習経験の振り返りを通して、自己課題を明確にし、各学校段階の教育とは何かについて探求する。事前事後指導には多くの時間をかけており本学科の特徴となっている。

教育学科 (2)

○幼稚園・小学校におけるボランティア活動

- 授業の空き時間を利用して、大学構内にある「常磐大学幼稚園」でのボランティアとして活動する。学生生活の中で、幼児たちと触れ合う機会が多くある。
- 小学校においては、毎週公立小学校へのスクールボランティアに参加し、継続的に小学校に赴き、児童のつまずき、成長、学級の運営の仕方を学んでいる。
- 水戸市総合教育研究所との協定により、学校支援活動に参加しており、公立幼稚園、公立小学校へスクールボランティアに参加している。

○小関一也ゼミ（持続発展教育）：沢登川流域の活性化、常磐小の学校探検、春・秋に実施、学内緑化サークル、アフリカのフェアートレード、文化交流

現代社会学科（学科長　長谷川幸一）

社会調査実習（フィールドワーク）：3年生必修、地域の実態を報告書にまとめる。

コミュニケーション学科（学科長　岩田温）

・コミュニケーション演習（2年生必修）：自分が履修した授業について発表、オリエンテーションで1年生に発表。
・グラフィックデザイン演習（中村）：企業から依頼されたデザインを作成し、発表。
・ある演習で、ラーメン屋を立ち上げる。
・石原亘ゼミ：アニメ・写真など学外展覧会で発表，
・中村泰之ゼミ：デザインコンテンツの発表
・寺島哲平：学科横断プロジェクト、イスラム圏観光者へのハラール料理対応のレストランのデータベース化を水戸市・商工会議所に提案

健康栄養学科 (学科長冨田玲子，　担当、石田喜美)

1．授業科目として実施しているもの

（1）「日本語表現演習」（サブタイトル：地域・社会で活動するための日本語

表現トレーニング）野田尚史・森口稔『日本語を書くトレーニング』『日本語を話すトレーニング』を教科書として、「お店で接客をする」「お店やサークルの宣伝をする」「道や交通の案内をする」など、具体的な社会生活場面における問題をとりあげ、その中での日本語コミュニケーションの在り方について、3～5人程度のグループでディスカッションしてもらい、ディスカッションした成果を発表していただいています。

教科書は15回分の構成になっており、15回それぞれテーマを変えながら、問題の多い事例をもとに、学習者がグループで問題点を考え、改善案を提案するという流れになっています。

もともとPBL型の授業になるために作成されたテキストを利用して、そのような授業を行っています。

2．ゼミナールの活動として実施しているもの（実施したもの）

（1）「TOKIWAまちなかラボ」

ひたちなか市那珂湊エリアで、月に1回開催される夜市でのワークショップ出展

（2）偕楽園の活用方法提案：「中高生の居場所づくりプロジェクト『after school』」

3．課外活動として実施しているもの（実施したもの）

（1）夜梅おみくじ企画

経営学科（村山）

基礎ゼミナール：2年必修、「論理的思考の基礎iPod編」5回は映像とオリジナルテキストを利用したグループワーク・発表会、「論理的思考の基礎トキワ祭編」7回は模擬店出店のプレゼン優勝チームがトキワ祭に出店。

マーケティング実習：2年必修、ホーリーホックコラボデーのイベント企画と実施。水戸市からの課題に応える。ブランド化（“水戸美味“が採用）、森林公園の活性化策

ビジネス専門実習：目玉演習、3年必修、3コース。

マネジメントはCVG（キャンパスベンチャーグランプリ）に応募、3チームが地域産品を利活用したビジネスプランを発表（茨城新聞に掲載）、

マーケティングは京成百貨店からの課題にBag in Bag, タオルアートで2チームが2日間にわたり販売接客の実施（茨城新聞に掲載）。

会計は上場企業の財務分析を実施。

経営学科（2）

文堂弘之ゼミ：女性の労働問題で会社訪問、日銀のプレゼンに応募、第二位に。

北根精美ゼミ：日立商工会議所の課題に応える。

英米語学科（伊藤礼子）

実践・実習系の科目、取り組み

・Student Tutor制度

・海外研修：アメリカ4週間、イギリス4週間、中国3週間、タイ3週間。

・大津理香・辻川美和主催のサークル：幼児向け英語絵本の朗読会を地域イベントに出店。

・伊藤礼子ゼミ：British Hills滞在

コミュニティ振興学部

コミュニティ文化学科（坂井知志）

- 当学科の授業は、ほぼ課題解決型（コンピュータ演習等のスキル取得の科目を除く）。
- 坂井の「著作権と情報倫理」は知識修得型, それ以外は該当すると思います。

地域政策学科（林寛一）

- 砂金先生のゼミ（地域活性化など）、元木先生のゼミ（環境問題など）が実績があります。吉田先生のゼミ（法務関係）も意欲的です。

ヒューマンサービス（池田幸也）

- 学部共通科目「コミュニティ活動演習」（社会福祉分野） 担当 池田幸也
- ヒューマンサービス学科 「学びの技法Ⅰ」 担当 ヒューマンサービス学科教員 詳しくはシラバス参照。

常磐大学のＰＢＬ　2015 年 1 月 25 日現在

報告　常磐大学国際学部・経営学科長　村山元理

大学全体

プロジェクトＡ（２－４年）：特別企画科目。１年間

プロジェクトＢ（３－４年）：特別企画科目。２年間の後半の１年間。

特別企画科目（海外研修も）は「相互乗り入れ制度」２０単位に参入できる。

プロジェクトＡ：松原哲也担当（美術史、健康栄養学科）、健康栄養学科の有志の会（秦順一先生の協力）で６年間実施。２年前から正式科目。常陸太田市との地域連携協定からの課題で、耕作放棄地（金砂郷上利郷、木村さんの絶大な支援）を借り受けてトキワファームの運営。農作物（小麦、そば、じゃがいもなど）の種まきから収穫祭まで。イノシシの肉の調理。年間土日１０回現地へ車２台（登録者７名）。地域が抱える課題を可能性に変える試み。常磐祭にピザ窯の出店。

ひたちなか市商工会議所との連携：枝川圃場で合鴨農法による稲作の実施。

第二種兼業農家たちの高齢化への支援として喜ばれる。

プロジェクトＡ：長谷川、村中・北根担当：受講者ナシ

人間科学部

心理学科（心理学科長　渡邊孝憲）

心理学科では３年生の科目である「基礎応用心理学実験実習」がそれにあたるかと思います。

学生は数人ずつのグループに分かれ，それまでに学んできたことを参考にして自らテーマを決め，文献を調べ，研究デザインも考え，実際に実験などを行ってデータを集めて分析，考察をするというものです。

このとき教員の方からは積極的にはアドバイスを与えたりせず，時々進み具合をチェックしたり，学生から質問があればそれに答えるという形で，ほぼ学生が自主的に共同で研究を行うというものです。

すみません，私は臨床系なのでこれにはかかわっておらず，どのようなテーマが選ばれているのかについての資料を手元にはもっていません。ですが，相当先生方も学生も力を入れて行っている科目です。

セメスターの最後には発表会も行っています。

教育学科　（教育学科長　吉江森男）

〇授業「学びの技法Ⅰ」、「学びの技法Ⅱ」

一斉授業、グループ活動、個別活動を適宜組み合わせて、教育に関する新聞記事・文献・資料の収集・読解・紹介、これらを引用した自説の叙述、討論、発表等を行っている。

〇授業「初等教育実習（事前事後指導を含む)」、「中等教育実習Ⅰ（事前事後指導を含む)」、「中等教育実習Ⅱ（事前事後指導を含む)」

事前指導では、教育実習の心構え・手順・マナー、学習指導案作成の仕方、学級担任のあり方等、基本的な事項を学ぶとともに、模擬授業を通して学習指導の方法や技術を実践的に習得する。

教育実習では、教師としての基礎的実践力を養い、自らの教職への意志と適性を確認する。

事後指導では、実習経験の振り返りを通して、自己課題を明確にし、各学校段階の教育とは何かについて探求する。事前事後指導には多くの時間をかけており本学科の特徴となっている。

〇幼稚園・小学校におけるボランティア活動

授業の空き時間を利用して、大学構内にある「常磐大学幼稚園」でのボランティアとして活動する。学生生活の中で、幼児たちと触れ合う機会が多くある。

小学校においては、毎週公立小学校へのスクールボランティアに参加し、継続的に小学校に赴き、児童のつまずき、成長、学級の運営の仕方を学んでいる。

水戸市総合教育研究所との協定により、学校支援活動に参加しており、公立幼稚園、公立小学校へスクールボランティアに参加している。

〇小関一也ゼミ（持続発展教育）：沢登川流域の活性化、常磐小の学校探検、春・秋に実施、学内緑化サークル、アフリカのフェアートレード、文化交流

現代社会学科（学科長　長谷川幸一）

社会調査実習（フィールドワーク）：３年生必修、地域の実態を報告書にまとめる。

コミュニケーション学科（学科長　岩田温）

・コミュニケーション演習（2 年生必修）：自分が履修した授業について発表、オリエンテーションで１年生に発表。

・グラフィックデザイン演習（中村）：企業から依頼されたデザインを作成し、発表。

・ある演習で、ラーメン屋を立ち上げる。

・石原亘ゼミ：アニメ・写真など学外展覧会で発表，

・中村泰之ゼミ：デザインコンテンツの発表

・寺島哲平：学科横断プロジェクト（プロジェクト実習か？）イスラム圏観光者へのハラール料理対応のレストランのデータベース化を水戸市・商工会議所に提案

健康栄養学科（学科長冨田玲子，　担当、石田喜美）

１．授業科目として実施しているもの

（１）「日本語表現演習」（サブタイトル：地域・社会で活動するための日本語表現トレーニング）野田尚史・森口稔『日本語を書くトレーニング』『日本語を話すトレーニング』を教科書として、「お店で接客をする」「お店やサークルの宣伝をする」「道や交通の案内をする」など、具体的な社会生活場面における問題をとりあげ、その中での日本語コミュニケーションの在り方について、３～５人程度のグループでディスカッションしてもらい、ディスカッションした成果を発表していただいています。

教科書は１５回分の構成になっており、１５回それぞれテーマを変えながら、問題の多い事例をもとに、学習者がグループで問題点を考え、改善案を提案するという流れになっています。

もともとＰＢＬ型の授業になるために作成されたテキストを利用して、そのような授業を行っています。

２．ゼミナールの活動として実施しているもの（実施したもの）

（１）「TOKIWAまちなかラボ」

ひたちなか市那珂湊エリアで、月に１回開催される夜市でのワークショップ出展を行うことを基軸とした学習活動を行っています。学生たちには、屋外での実施であること、電気が使えないこと、子ども（小学校中学年～高学年）の来場者が多いことなどの条件をもとに、来場者にとって楽しいものであり、また何らかの学びにつながるようなワークショップを考えることを課題そていいます。ゼミナール内を３～４つのグループにわけ、それぞれのグループが異なる時期に、企画のプレゼンテーションから企画書の作成までを行い、そのグループが中心となって、準備とリハーサル、当日の運営までを担います。実践を終えたあとのゼミナールで振り返り会を実施し、「当日良かったと思えたエピソード」および「改善すべき点」について情報を共有し、その次の実践へとつなげるというプロセスを２年間繰り返し てきました。

（２）偕楽園の活用方法提案：「中高生の居場所づくりプロジェクト『after school』」

今年４月に、水戸青年会議所から、偕楽園の活用方法の提案を青年会議所主催事業で行ってほしいという依頼を受け、ゼミナールの３年生とともに、水戸市および茨城県における若者の実態について情報を集め、それをもとに問題点を明かにし、問題の解決につながるような提案を行うという活動を実施しました。 提案内容の作成およびプレゼンテーション資料の作成を有志で行うとともに、ゼミナール・メンバー全員でプレゼンテーションのリハーサルを行う とともに、有志学生が、偕楽園の活用提案を主催事業にて実施しました。

３．課外活動として実施しているもの（実施したもの）

（１）夜梅おみくじ企画

ゼミナールの学生を中心とした人間科学部の有志の学生が、３月中旬に行われる「夜・梅・祭」内で実施される、「夜梅おみくじ」を制作し、当日販売を行うというプロジェクトを実施してきました。

「夜梅おみくじ」の企画にあたっては、従来販売されてきた「夜梅おみくじ」の問題点および「夜・梅・祭」における課題について議論し、その年の「夜梅おみくじ」をどのようなものとするかを考えたうえで、実際のおみくじの制作・販売を行ってきました。 当初、 水戸青年会議所からのフィードバックは得られなかったのですが、昨年度は、水戸青年会議所とのつながりも形成され、青年会議所からのフィードバックを得ながら、実施した「夜梅おみくじ」企画についての反省会も実施することができました。

国際学部

経営学科（村山）

基礎ゼミナール：2 年必修、「論理的思考の基礎 iPod 編」5 回は映像とオリジナルテキストを利用したグループワーク・発表会、「論理的思考の基礎トキワ祭編」7 回は模擬店出店のプレゼン優勝チームがトキワ祭に出店。

マーケティング実習：2 年必修、ホーリーホックコラボデーのイベント企画と実施。水戸市からの課題に応える。ブランド化（“水戸美味 “が採用)、森林公園の活性化策

ビジネス専門実習：目玉演習、3 年必修、3 コース。マネジメントはＣＶＧ（キャンパスベンチャーグランプリ）に応募、3 チームが地域産品を利活用したビジネスプランを発表（茨城新聞に掲載)、マーケティングは京成百貨店からの課題に Bag in Bag，タオルアートで２チームが２日間にわたり販売接客の実施（茨城新聞に掲載)。会計は上場企業の財務分析を実施。

文堂弘之ゼミ：女性の労働問題で会社訪問、日銀のプレゼンに応募、第二位に。

北根精美ゼミ：日立商工会議所の課題に応える。

英米語学科（伊藤礼子）

実践・実習系の科目、仕組み。

・Student Tutor 制度

・海外研修：アメリカ４週間、イギリス４週間、中国３週間、タイ３週間。

・大津理香・辻川美和主催のサークル：幼児向け英語絵本の朗読会を地域イベントに出店。

・伊藤礼子ゼミ：British Hills 滞在

コミュニティ振興学部

コミュニティ文化学科（坂井知志）

当学科の授業は、ほぼ課題解決型（コンピュータ演習等のスキル取得の科目を除く）。

坂井の「著作権と情報倫理」は知識修得型ですが、それ以外は該当すると思います。

地域政策学科（林寛一）

砂金先生のゼミ（地域活性化など）、元木先生のゼミ（環境問題など）が実績があります。また、今年度来られた吉田先生のゼミ（法務関係）も意欲的です。

ヒューマンサービス（池田幸也）

学部共通科目　「コミュニティ活動演習」（社会福祉分野）　担当　池田幸也

ヒューマンサービス学科　「学びの技法Ⅰ」　　担当　ヒューマンサービス学科教員

詳しくはシラバス参照。

大学間連携・PBL・国際交流

平成26年度　茨城大学人文学部PBL授業
プロジェクト実習活動報告会

茨城キリスト教大学
上野　尚美

1. 大学間連携について（1）

2012年度
大学間連携の一環として、
茨城大学留学生センターと
本学国際理解センター間で
連携プロジェクト開始

2012年10月21日
連携プロジェクト
「グローバル教育を語る」を
実施

P-01

1. 大学間連携について（2）

2013年7月10日　共催シンポジウム「留学と就職を考える」
2013年11月25日　連携プロジェクト「グローバル教育を語る」
2013年12月8日　異文化フォーラム

P-01

2. 茨城キリスト教大学における国際交流

- 海外語学研修、海外文化研修、異文化体験、セメスター留学、交換留学などを通して、海外における異文化間コミュニケーションや国際理解
- 国際理解センターが管轄する“バディ”の学生を中心に、学内で留学生との交流および地域における国際交流活動への参加を通して国際社会で必要となる共生への学び
- 地域の大学との連携を深め、「グローバルなつながり」と共に「ローカルなつながり」を通して、地域における国際理解の向上

P-01

3. PBL

- 現在、本学において独自のPBL授業は開講していないが、“バディ”の学生を中心としてPBLの授業およびPBL授業の一環として実施されている「異文化交流フォーラム」などの活動にも積極的に参加している。
- PBL授業履修状況：
  －2013年　3名の履修者
  －2014年　0名の履修者

P-01

4. 今後の課題

- 茨城大学におけるPBL授業への積極的参加を促し、常磐大学との連携も深める。
- PBL授業を本学で実施し、大学間の連携を深める。

P-01